

いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンの取組について（概要）

令和 5 年度

I 地域経済の活性化（圏域全体の経済成長のけん引）

① 事業者の経営力強化事業

（令和 5 年度決算額 50,626 千円，令和 6 年度予算額 52,089 千円）

○ 令和 5 年度実績

産業活性化コーディネーターについて，従来の配置に加えて新たに水戸市，笠間市・城里町，小美玉市・茨城町・大洗町にそれぞれ 1 名ずつ配置し，国・県・市町村補助制度の活用や企業間マッチング，人材確保，経営相談などに関する事業者支援を実施した（企業支援件数 616 件）。

○ 令和 6 年度以降の計画

引き続き，産業活性化コーディネーターを水戸市，笠間市・城里町，小美玉市・茨城町・大洗町にそれぞれ 1 名ずつ配置し，事業者支援を実施する。

② 先進的農業実践人材の育成事業

（令和 5 年度決算額 500 千円，令和 6 年度予算額 500 千円）

(1) ICT等を活用した次世代農業に係る実証実験や研修

○ 令和 5 年度実績

農業人材育成コンソーシアム（事務局：鯉淵学園）に加入し，実証実験や研修に参加した。

- ・ 「農業分野のメタバース（仮想空間）利用」をテーマにした講演，スマートグラスの活用の実証実験，ドローンによる散布等の実証実験（参加者 23 名）
- ・ 「ドローンの「オープンソース×農業」」をテーマにした講演，「ドローンセンシングの世界での活用」をテーマにした講演（参加者 25 名）

○ 令和 6 年度以降の計画

事業内容を刷新し，JA全農いばらき，農薬メーカー，県と連携し，3 市町（水戸市，笠間市，茨城町）においてドローンを活用した水稻直播の実証実験を実施する。

(2) ドローン研修へ参加する農業者の支援

○ 令和5年度実績

各市町村において、スマート農業に関する講演や実演会等を実施した。

- ・ 水戸市にて農業用ドローンの活用についての講演会を実施した（参加者 36 名）。
- ・ 那珂市にてスマート農業についての講演会を実施した（参加者 14 名）。
- ・ 城里町にてドローンを使用しての肥料散布の講演会や、トラクターの自動操舵システム搭乗体験会を実施した（参加者 14 名）。
- ・ 茨城町（小美玉市，大洗町共催）にて，ドローン，自動操舵システム，ファーム，アグリノート，ロボット草刈り機などを紹介するスマート農業実演会を実施した（参加者 115 名）。

○ 令和6年度以降の計画

事業内容を刷新し，JA全農いばらき，農薬メーカー，県と連携し，3市町（水戸市，笠間市，茨城町）においてドローンを活用した水稲直播の実証実験を実施する（取組①の再掲）。水稲直播の際は，農業者の参加を可能とすることで，研修会としても実施するとともに，ホームページ等に掲載し，周知に努める。



③ 地場産品の販路拡大とブランディング事業

（令和5年度決算額 2,405 千円，令和6年度予算額 3,000 千円）

(1) 地場産品PRカタログの作成

○ 令和5年度実績

令和4年度に作成した地場産品PRカタログを，圏域内のスーパーのバイヤー，飲食店等に配布した（配布部数：2,042 冊）。

○ 令和6年度以降の計画

PR カタログの効果的な活用方法を検討し，地場産品の販路拡大を推進していく。

(2) 地場産品の産業祭等への出店

○ 令和5年度実績

- ・ 各市町村において自らの産業祭等へ出店し，PRを行った。
- ・ イオンモール水戸内原で「いばらき県央特産品フェア」を開催した。

○ 令和6年度以降の計画

- ・ 産業祭等への出店
- ・ 2月頃、イオンモール水戸内原で「いばらき県央特産品フェア 2025」を開催予定

(3) 地場産品を使った新メニューの提供促進

○ 令和5年度実績

地場産品を使った新メニューの提供促進について水戸市内ホテルと交渉し、食材提供を行った。

○ 令和6年度以降の計画

- ・ 6月～9月水戸京成ホテルとの連携事業実施予定
- ・ 地場産品を使用した新メニューの提供促進に向け、協力事業者の掘り起こし、調整を行う。

(4) ほしいもブランディングに係る取組

○ 令和5年度実績

JAL機内誌への広告掲載を行った。

○ 令和6年度以降の計画

県のブランディングの取組状況等を踏まえ事業のあり方を検討する。



④ 戦略的観光プロモーション事業

(令和5年度決算額 9,055千円, 令和6年度予算額 10,000千円)

(1) 情報発信ツールの活用

○ 令和5年度実績

- ・ 9市町村の食や絶景スポット等の観光資源を紹介するため、職員自らが体験取材を行い、「あす旅リレーブログ」として、12月から観光協議会専用ホームページで定期配信を実施した。また、いばらき県央地域の認知度向上はもとより、ブ

ログ記事やホームページへの誘導を図るため、観光協議会専用 Instagram で広告配信を実施した。あわせて、体験取材の様子を動画で撮影し、30 秒・60 秒の PR 動画を作成した。

- ・ 広域観光ガイドブック「いばらき県央 あす旅手帖」について、カフェやフォトスポットなどメインターゲットを意識した内容を加え、25,000 部増刷し、県央地域の各観光案内所や各市町村イベント等での配布により、県央地域の認知度向上を図った。

○ 令和 6 年度以降の計画

引き続き、ガイドブックや観光協議会専用のホームページ、Instagram において、メインターゲット（首都圏在住 20～30 歳代女性）を意識した観光情報の発信に取り組む。特に、Instagram において、民間のノウハウを活用し、県央地域ならではの多彩な観光情報の発信に努める。

(2) 広告出稿

○ 令和 5 年度実績

観光協議会のメインターゲットと読者層が合致する女性向け旅行雑誌『OzmagazineTRIP』を選定し、秋号（9 月 26 日（火）発売）において、県央地域のお土産を紹介するとともに、「手仕事」をテーマとして「水府提灯」と「笠間焼」を軸に巡る旅を掲載した。読者アンケートでは、同号において人気だった特集記事の第 2 位にランクインし、メインターゲットに向けて県央地域の魅力を訴求できた。あわせて、掲載記事を活用し、観光協議会専用 Instagram で連動した情報発信を行った。

○ 令和 6 年度以降の計画

県央地域への誘客、認知度向上に資する観光協議会事業を効果的に発信するため、様々な手法による広告出稿を行う。

(3) 観光キャンペーン実施

○ 令和 5 年度実績

県央地域の認知度向上とあわせ、首都圏からの観光誘客を図るため、東京スカイツリータウン（東京ソラマチ）で観光キャンペーンを実施し、各市町村の観光パンフレット等を配布するとともに、有料ワークショップ等を行い、県央地域の魅力を発信した。

▽みつけた茨城県央 あす旅観光キャンペーン

期 日 令和 6 年 2 月 10 日（土）

場 所 東京スカイツリータウン（東京ソラマチ） ソラマチひろば

内 容 ・ 各市町村の観光パンフレット等の配布
・ 有料ワークショップ（約 50 組）
・ バッチづくり体験ブース（約 70 人） 等

○ 令和 6 年度以降の計画

県央地域の観光地としての認知度向上及び観光協議会事業を広くPRするため、観光キャンペーンを実施する。



⑤ 誘客と観光消費促進事業

(令和5年度決算額 9,831千円, 令和6年度予算額 10,000千円)

(1) 圏域内の周遊促進

○ 令和5年度実績

- 令和4年度に、圏域内の誘客、周遊を促進するため、車の運転が苦手な方でも周遊できるよう作成した、公共交通を活用したモデルコースのうち3コースを、県内で毎月153,000部配布されている情報マガジン『サクラサクライフ』の4月号(令和6年3月26日(火)配布)に掲載し、春休みの時期にあわせてモデルコースの周知を図った。
- 県央地域への誘客及び認知度向上を図るため、いばらき県央地域のすてきな場所や瞬間を投稿していただくSNSフォトコンテストを10月1日(日)から12月31日(日)までを募集期間として開催した。

▽ #みつきたいばらき県央フォトコンテスト

募集期間 令和5年10月1日(日)～12月31日(日)

投稿数 790件

アンケート回答数 1,176件

フォロワーの増減数 +820 ※10月1日比(12月31日時点)

○ 令和6年度以降の計画

誘客と周遊の促進を図るため、圏域内の豊富な資源を最大限に活用し、県央地域を周遊するツアーを企画・催行する。

(2) 物産イベントへの出展

○ 令和5年度実績

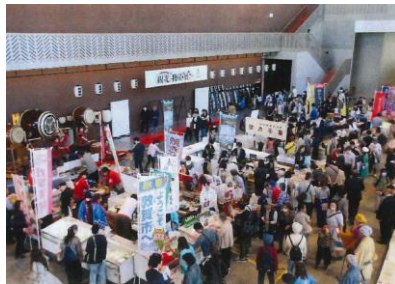
県央地域の特産品等のPRや認知度向上を図るため、茨城DC期間の10月7日(土)～9日(月・祝)の3日間、水戸市民会館を会場に開催された「姉妹・親善都市と交流都市の観光と物産展」に参画し、特産品の販売や観光パンフレットの配布を行った。

▽姉妹・親善都市と交流都市の観光と物産展

期 間 令和5年10月7日（土）～9日（月・祝）
10時～18時 ※最終日のみ15時まで
会 場 水戸市民会館（やぐら広場ほか）
来場者 28,000人
売 上 1,509,955円（税込）

○ 令和6年度以降の計画

県央地域の特産品等のPRや認知度向上を図ることを目的とした物産イベントを実施する。



(3) 体験プログラムの充実

○ 令和5年度実績

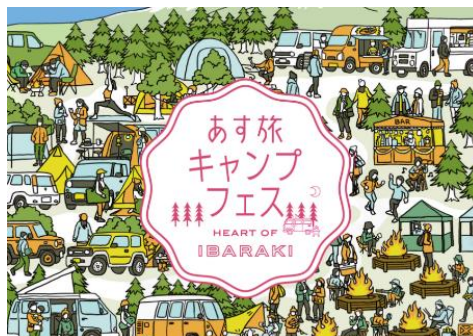
県央地域ならではの食資源や体験を取り入れたキャンプイベントを実施した。同イベントにおいては、県央地域の食材を使ったオリジナルキャンプ飯のレシピを作成し、宿泊者にレシピカードをプレゼントするとともに、一部レシピを活用した「ホイル焼き体験」を実施した。また、提灯づくりをはじめとしたワークショップや丸太切り、空中ヨガ等子どもから大人まで楽しめる体験ブースを設置したほか、9市町村の観光PRも行い、特産品や体験プログラムのPR、認知度向上とあわせて、観光消費の促進を図った。

▽あす旅キャンプフェス

期 間 令和5年11月25日（土）～26日（日）10時～15時
会 場 潤沼自然公園キャンプ場
来場者 約1,500人（延べ）／うち宿泊者270人

○ 令和6年度以降の計画

県央地域ならではの体験の発掘及び磨き上げに取り組みながら、キャンプイベント等体験を取り入れたイベントを行う。



※ ビジョンにおける「Ⅰ 地域経済の活性化」の成果指標

		ビジョン策定時 点の直近の値	2023(R5)年度末 時点の直近の値	目標値
総生産	時点(年度)	2018(H30)	2020(R2)	2026(R8)
	値(百万円)	3,378,567	3,302,318	3,739,000
事業所の従事者数	時点(年)	2016(H28)	2021(R3)	2026(R8)
	値(人)	320,670	336,810	322,200
産業活性化コーディネーターが支援 した企業等の支援件数	時点(年度)	2020(R2)	2023(R5)	2026(R8)
	値(件)	570	616	720
新規就農者数(45歳未満の者に限 る。)	時点(年度)	2019(R1)	2021(R3)	2026(R8)
	値(人)	52	62	70
観光交流人口(観光入込客数)	時点(年)	2020(R2)	2022(R4)	2026(R8)
	値(人)	11,027,200	15,708,700	20,020,000

Ⅱ 都市機能の向上（高次の都市機能の集積・強化）

⑥ 周産期医療提供体制の維持・確保事業

（令和５年度決算額 20,000 千円，令和６年度予算額 20,000 千円）

○ 令和５年度実績

高度な周産期医療を安定的に提供できる体制の整備に向け，地域周産期母子医療センターの役割を担う水戸赤十字病院に対し，産婦人科医確保のための経費について財政支援を行った（産婦人科医師数 10 人）。

○ 令和６年度以降の計画

引き続き，水戸赤十字病院に対し，産婦人科医確保のための経費について財政支援を行う。

⑦ 医師確保事業

（令和５年度決算額 0 千円，令和６年度予算額 補正予算対応）

○ 令和５年度実績

医療機関開設補助金の補助対象事業に，既存施設における増築等を加えて，制度の拡充を図るとともに，市ホームページにおいて制度の周知を行った。

○ 令和６年度以降の計画

引き続き，医療機関開設等補助金の周知を図るとともに，利用促進に努める。

⑧ 広域的公共交通ネットワーク構築事業

（令和５年度決算額 317 千円，令和６年度予算額 519 千円）

(1) 検討会議の開催

○ 令和５年度実績

- ・ 全体会議の開催 1 回（今後の実施方針決定，MaaS（JR「ひたちのくに紀行」）と連携した利用促進事業検討）
- ・ 担当者間協議の開催 2 回（路線バス「石塚・内原線」新規運行について）

○ 令和６年度以降の計画

全体会議，分科会及び担当者間協議の開催

(2) MaaS との連携や新たな技術を活用した公共交通の導入

○ 令和 5 年度実績

- ・ 茨城 DC の開催にあわせ、JR 水戸支社が展開する MaaS「ひたちのくに紀行」の運用が開始され、水戸市及び構成 3 市町（笠間市、ひたちなか市及び大洗町）で利用可能な公共交通機関や観光施設等の電子チケットを販売した。
- ・ ひたちのくに紀行の利用促進を図るため、JR 水戸支社と 9 市町村が連携したデジタルスタンプラリー及びくじ企画を実施した。

○ 令和 6 年度以降の計画

令和 6 年度内にアフター DC の開催が予定されているため、引き続き連携する。



⑨ 広域的公共交通の利用促進事業

(令和 5 年度決算額 43,583 千円, 令和 6 年度予算額 462 千円)

(1) エコ通勤チャレンジウィークの実施

○ 令和 5 年度実績

6 月及び 12 月にそれぞれ 7 日間実施した。

○ 令和 6 年度以降の計画

エコ通勤チャレンジウィークの実施（年 2 回予定）

(2) 茨城交通キャッシュレス決済システム導入支援

○ 令和 5 年度実績

関連する 7 市町村で、茨城交通キャッシュレス決済システムの導入を支援した。

○ 令和 6 年度以降の計画

- ・ 企画乗車券の販売について検討する。
- ・ 大洗鹿島線における Suica 導入の可能性について検討する。

⑩ 大学との連携推進事業

(令和5年度決算額 0千円, 令和6年度予算額 100千円)

○ 令和5年度実績

各大学及び圏域構成市町村と協議し、調査・研究内容の骨子を取りまとめた。

○ 令和6年度以降の計画

各大学及び圏域構成市町村と連携し、若い世代のまちづくり調査・研究事業等に取り組む。

⑪ ICTによるまちづくり推進事業

(令和5年度決算額 172千円, 令和6年度予算額 5,200千円)

○ 令和5年度実績

生成AIを活用した業務効率化や住民サービス向上について検討するため、10月13日(金)、「自治体業務への『ChatGPT』活用セミナー」を実施した(参加:9市町村職員59名)。

○ 令和6年度以降の計画

職員のICTにかかる知識・スキルの向上にかかる研修会等を年1回程度開催していく。

※ ビジョンにおける「Ⅱ 都市機能の向上」の成果指標

		ビジョン策定時点の直近の値	2023(R5)年度末時点の直近の値	目標値
総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センター数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(箇所)	2	2	2
医師数	時点(年)	2018(H30)	2022(R4)	2026(R8)
	値(人)	1,385	1,473	1,470
広域的公共交通ネットワーク等に係る社会実験の取組件数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(累計件)	-	1	2
大学と連携した調査・研究の取組件数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(累計件)	-	-	2
ICTを活用した社会実験の取組件数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(累計件)	-	-	2

Ⅲ 生活環境の充実（圏域全体の生活関連機能サービスの向上）

⑫ 救急医療情報等発信事業

（令和５年度決算額 104 千円，令和６年度予算額 180 千円）

(1) 小児医療セミナーの開催

○ 令和５年度実績

未就学児の保護者を対象に，子どもの急な病気やケガへの対応方法のほか，新興・再興感染症について学ぶことのできるセミナーを開催した（33 組 81 人（うち大人 51 人）参加）。また，同セミナーの内容については，当日参加できなかった保護者も視聴できるよう，後日，インターネット上で動画を配信した。

○ 令和６年度以降の計画

会場を各市町村に移して健康セミナーを開催する。

(2) 適正受診等の周知

○ 令和５年度実績

休日・夜間の不要・不急な受診や救急車の適正利用などの適正受診のほか，かかりつけ医を持つことの利点などについて，市町村広報紙や茨城県救急電話相談の広報ポスター等で周知した。また，ゴールデンウィーク，お盆及び年末年始における圏域の初期救急医療機関の診療体制の情報発信を行った。

○ 令和６年度以降の計画

上記を継続するとともに，紙媒体での情報発信を廃止し，デジタル化を図る。

⑬ 初期救急医療提供体制維持・確保事業

（令和５年度決算額 102,885 千円，令和６年度予算額 73,322 千円）

○ 令和５年度実績

水戸市休日夜間緊急診療所への財政支援を実施し，休日や夜間における診療体制を維持することで，圏域住民が安心して，医療機関を受診できる医療提供体制を確保した。

○ 令和６年度以降の計画

引き続き，水戸市休日夜間緊急診療所への財政支援を継続し，初期救急医療提供体制の維持・確保を図る。

⑭ 看護師等確保事業

(令和5年度決算額 0千円, 令和6年度予算額 250千円)

(1) 茨城県看護協会の復職支援に関する事業の周知

○ 令和5年度実績

茨城県看護協会が実施する看護職再就業支援研修及び潜在看護職研修について、SNS等により周知を行った。

○ 令和6年度以降の計画

引き続き、茨城県看護協会が実施する復職支援に関する事業等の周知に取り組む。

(2) 病院見学ツアー等

○ 令和5年度実績

将来、圏域内の医療機関等への勤務を希望する受験生を対象に、水戸市医師会看護専門学院が実施する特定市町村推薦入試について、募集を行った。また、潜在看護師の復職支援や学生を対象とした看護職体験等、看護職の確保を目的とした事業について、茨城県看護協会と協議を行った。

○ 令和6年度以降の計画

引き続き、看護職確保のため、茨城県看護協会と連携し、潜在看護師の復職を支援する。また、潜在看護師に限らず、学生を対象とした病院での看護職体験等、看護職の確保に向け、内容等は適宜見直す。

⑮ 未来の医療人材育成事業

(令和5年度決算額 111千円, 令和6年度予算額 120千円)

○ 令和5年度実績

医療への興味・関心を高め、未来の医療人材につなげていくことを目的に、水戸済生会総合病院において、小・中学生を対象とした病院体験ツアーを実施した。

○ 令和6年度以降の計画

引き続き、小・中学生が実際の医療現場や医療の状況に触れ、職業としての医療への興味・関心を高める取組を実施する。

⑯ ICTを活用した健康づくり事業

(令和5年度決算額 236千円, 令和6年度予算額 560千円)

(1) 茨城県央地域ウエルネス推進協議会の開催

○ 令和5年度実績

- ・ 有識者の委員 18 名で構成する茨城県央地域ウエルネス推進協議会において、圏域の健康課題を整理し、令和6年度に社会実験を連携して行う企業を選定した。

○ 令和6年度以降の計画

茨城県央地域ウエルネス推進協議会を開催し、実施した社会実験の報告と、さらに次年度以降の社会実験について協議する。

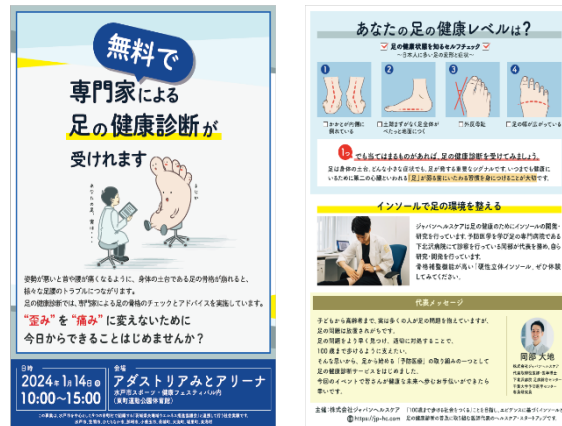
(2) ICTを活用した健康づくりに係る社会実験の実施

○ 令和5年度実績

圏域において2件（足の健康診断、認知機能訓練）の社会実験を行った。

○ 令和6年度以降の計画

官民連携を創出するイベント「ガバメントピッチ」を通じてマッチングした企業とともに、新たな社会実験を実施する。



⑪ 成年後見制度利用促進事業

(令和5年度決算額 29,003 千円, 令和6年度予算額 26,840 千円)

(1) 普及啓発（パンフレット等の作成・配布, 学習会開催等）

○ 令和5年度実績

- ・ パンフレット 9,000 部及びリーフレット 9,500 枚を作成し、連携市町村の窓口への配置、金融機関、医療機関等への配布を行った。
- ・ 権利擁護サポートセンターだよりの発行（1回）及び広報誌（通年）、ホームページ等で情報発信を行った。
- ・ 市民向け学習会（5回）、専門職向け学習会（2回）を行った。

○ 令和6年度以降の計画

パンフレット等の配布及び学習会の開催等を通じて、成年後見制度の普及啓発活動を推進していく。

(2) 相談支援

○ 令和5年度実績

成年後見制度の利用に関する相談を行った（1,384件のうち新規78件）。

○ 令和6年度以降の計画

権利擁護サポートセンターを中心とした地域ネットワークを生かした相談支援体制を構築していく。

(3) 利用促進「受任候補者調整等の支援」

○ 令和5年度実績

- ・ 被後見人の受任者候補マッチング会議を開催した。
- ・ 市民後見人候補者等への支援を行うとともに、家庭裁判所との連携を図った。

○ 令和6年度以降の計画

上記取組を継続する。

(4) 利用促進「市民後見人及び後見業務受託法人の育成・支援」

○ 令和5年度実績

- ・ 市民後見人養成講座フォローアップ研修（10/3，1/9）を実施した。
- ・ 市民後見人養成講座修了生が、生活支援員，後見支援員，成年後見サポーターとして活動したほか，地域ケア会議等にも参加した。

○ 令和6年度以降の計画

市民後見人及び法人後見受託法人の育成・支援を図り，成年後見人の成り手を拡充する。

(5) 利用促進「法人後見の受任」

○ 令和5年度実績

権利擁護サポートセンターが法人後見として23件を受任した。

○ 令和6年度以降の計画

社会福祉士会等の専門職の抱える件数が増えているため，専門職団体と協議し，法人後見への受任移行を促進する。

(6) 利用促進「市町村実務担当者向け研修会開催等」

○ 令和5年度実績

成年後見制度の申立てに係る研修会を開催した（5月）。

○ 令和6年度以降の計画

上記取組を継続する。

(7) 親族後見人に対する相談支援等

○ 令和5年度実績

- ・ 親族後見人の相談支援を行った（21件）。
- ・ 後見人向け相談会を実施した（圏域内9会場）。
- ・ 親族後見人向けチラシを作成，配布した。

○ 令和6年度以降の計画

親族後見人の相談会の実施，チラシの配布等による支援を継続する。

(8) 広域中核機関の共同設置・運営

○ 令和5年度実績

- ・ 広域中核機関である水戸市及び水戸市社会福祉協議会において，地域連携ネットワーク協議会の運営，各市町村中核機関との連携，支援を行った。
- ・ 圏域市町村による成年後見制度担当部署会議を開催した（8月，12月）。

○ 令和6年度以降の計画

上記取組を継続，推進する。



⑮ 芸術・文化教育の推進事業

（令和5年度決算額 3,392千円，令和6年度予算額 4,416千円）

(1) 各市町村の芸術・文化イベント情報共有

○ 令和5年度実績

イベントのチラシ等を各市町村へ配布し，情報共有を行った。

○ 令和6年度以降の計画

ポスター・チラシの送付，広報誌・SNSでの情報発信，ホームページへのイベント情報の掲載を引き続き行っていく。

(2) 水戸芸術館と連携した事業の実施

○ 令和5年度実績

令和5年度「子どものための音楽会」を実施した。

○ 令和6年度以降の計画

令和6年度「子どものための音楽会」を実施する。それ以降も事業を継続する。



⑪ プロスポーツ等による地域活性化事業

(令和5年度決算額 1,086千円, 令和6年度予算額 1,300千円)

○ 令和5年度実績

第2回いばらき県央地域スポーツフェスティバルを9月10日に笠間市総合公園で開催し、プロスポーツチーム等による体験教室(6種目 208人参加)とサブコンテンツ(3種目 198人参加)を実施した。

○ 令和6年度以降の計画

第3回スポーツフェスティバルを10月20日になか LuckyFM 公園で開催予定。

第4回以降についても未開催の6市町村で巡回開催予定。



⑫ 公の施設の広域利用促進事業

(令和5年度決算額 396千円, 令和6年度予算額 500千円)

(1) いばらき県央地域ガイドホームページの運営

○ 令和5年度実績

- ・ 住民へ周知するためのホームページを運営し、広域利用が可能な公共施設や県央地域の相互参加可能なイベント等を掲載した。
- ・ 令和6年2月にリニューアル公開した。

○ 令和6年度以降の計画

- ・ 上記取組を継続する。
- ・ 各市町村のホームページ内へのリンク設定や、ホームページの紹介記事を SNS 等で発信するなどの取組により、更なる周知を図る。

(2) 広域利用スタンプラリーによる利用促進

○ 令和 5 年度実績

ガイドブックや広報誌，SNS 等を通じて開催を周知し，7 月から 1 月末日まで公の施設の広域利用促進スタンプラリーを実施した。

○ 令和 6 年度以降の計画

上記取組を継続する。

②① 合同就職説明会・相談会開催事業

(令和 5 年度決算額 4,163 千円，令和 6 年度予算額 4,375 千円)

○ 令和 5 年度実績

県央地域内の企業が参加するオンライン合同企業説明会を開催した（参加企業：93 社，学生 83 名）。

○ 令和 6 年度以降の計画

引き続き，合同企業説明会を開催するほか，企業情報を発信する WEB サイトを新たに開設し，若者等 UJI ターンや地元定着を促進する。



②② 災害対策連携事業

(令和 5 年度決算額 0 千円，令和 6 年度予算額 0 千円)

○ 令和 5 年度実績

- ・ 休日・夜間を含む防災担当者名簿の共有
- ・ 物資・資機材の備蓄状況一覧の共有
- ・ 担当課長会議の実施
- ・ 水戸市における臨時災害放送の実験局について見学受入れ

○ 令和 6 年度以降の計画

引き続き連絡体制の構築や情報共有を行い、災害時の迅速かつ円滑な相互応援体制づくりに努める。

②③ 温室効果ガス排出削減啓発事業

(令和5年度決算額 519千円, 令和6年度予算額 650千円)

○ 令和5年度実績

10月～11月にかけて省エネ等に心がけた生活を実施し、電気量の削減に取り組むCO₂削減エコライフチャレンジを実施した。連携市町村で1,702人の参加があり、1人当たりの電気使用によるCO₂排出量は、前回同時期と比べ減少した。

○ 令和6年度以降の計画

開催時期を11月～12月に変更し、同様の取組を実施する。

②④ 環境啓発イベント相互参加促進事業

(令和5年度決算額 0千円, 令和6年度予算額 200千円)

(1) ガイドブック作成

○ 令和5年度実績

令和4年度に作成したガイドブックを配布した。

○ 令和6年度以降の計画

環境活動ガイドブックを隔年で作成し、配布する。

(2) ホームページ等による周知

○ 令和5年度実績

環境啓発イベント、環境保全活動、環境学習会等について、ホームページへの記事掲載により情報を広く発信した。

○ 令和6年度以降の計画

ホームページ等への記事掲載を継続する。

(3) EARTH HOUR への参加

○ 令和5年度実績

連携中枢都市圏として、EARTH HOUR 2024に参加した(広域での参加は全国初)。

○ 令和6年度以降の計画

EARTH HOUR への参加を継続する。

②⑤ 公共交通の維持・確保事業

(令和5年度決算額 17,000千円, 令和6年度予算額 25,049千円)

(1) 地域公共交通の域外運行

○ 令和5年度実績

水戸市「水都（すいっと）タクシー」と那珂市「ひまわりタクシー」による2市間相互乗入を継続した（相互乗入利用人数 2,275人）。

○ 令和6年度以降の計画

上記取組を継続する。

(2) 各市町村間の拠点を結ぶバス路線の維持・拡充

○ 令和5年度実績

- ・ 水戸市と城里町を結ぶ路線バス「石塚・赤塚線」の運行を支援した。
- ・ 水戸市と城里町を結ぶ路線バス「石塚・内原線」の運行に向けた調整を行った。

○ 令和6年度以降の計画

- ・ 「石塚・赤塚線」運行継続
- ・ 「石塚・内原線」運行開始（令和6年4月～）

②⑥ 移住・定住促進事業

(令和5年度決算額 9,896千円, 令和6年度予算額 10,000千円)

(1) 移住先の選択肢の一つとして圏域の情報を多くの対象者にPRする広報事業

○ 令和6年度以降の計画

- ・ 令和5年度は、他事業を優先することとし、本事業については実施しなかったが、令和6年度は、UJ ターン候補者をはじめとした域外又は域内の大学生に対し、圏域の暮らしの情報や移住体験事業の参加者が県央地域の「人」との交流を通して得た情報を中心にPRを行っていく。
- ・ 令和7年度以降については、構成市町村と意見交換を行い、判断していく。

(2) 魅力ある圏域の暮らしを分かりやすく伝える媒体制作事業

○ 令和5年度実績

- ・ HP「#いばらきどまんなかライフ」運用・保守管理
ホームページ閲覧数：13,163PV
※計測期間：2023年4月1日～2024年3月12日
- ・ いばらき県央地域移住促進パンフレット制作

パンフレット制作：1,000 部、「#いばらきどまんなかライフ」へ同内容の新規ページ制作

制作段階において、「シームレスな一体の生活圏」という圏域での移住促進 PR におけるコンセプトを決定

○ 令和 6 年度以降の計画

- ・ 移住検討者が圏域の暮らしの情報を求める際に対応できる広報媒体は揃ったため、令和 6 年度については、ホームページの運用・保守管理を行いつつ、移住相談事業等の各事業においてパンフレットを活用していく。
- ・ 令和 7 年度以降については、構成市町村と意見交換を行い、判断していく。



(3) 圏域に興味を持った方が参加できる移住体験事業

○ 令和 5 年度実績

いばらき県央 地域の魅力発掘ワーキングホリデー（2/4～17）実施（参加者数：5 人）

○ 令和 6 年度以降の計画

- ・ 令和 6 年度については、令和 5 年度実績を踏まえ、参加者の定員を拡充し、2 週間のふるさとワーキングホリデーを夏期に実施する。
また、実施に当たっては、別途実施する広報事業と連携し、参加者が体験して得た知識や思いを PR に生かしていく。
- ・ 令和 7 年度以降については、実施状況を勘案し、構成市町村と意見交換を行い、判断していく。

(4) 移住フェア等への合同出展による移住相談事業

○ 令和 5 年度実績

JOIN 移住・交流&地域おこしフェア 2024（1/13～14）へ出展

移住相談延べ件数：50 組 69 名 VR 移住体験者数：33 名

AI マッチング利用組数：14 組

○ 令和 6 年度以降の計画

- ・ 令和 6 年度については、より来場者数が多い移住フェアへ参加することとし、9 月に都内で実施予定となっている「ふるさと回帰フェア」に出展予定。
- ・ 令和 7 年度以降については、各種移住フェアの情報を収集するとともに、構成市町村と意見交換を行い判断していく。

②⑦ 地域おこし協力隊活動の活性化と広域展開事業

(令和5年度決算額 0千円, 令和6年度予算額 502千円)

○ 令和5年度実績

地域おこし協力隊事業担当者会議を開催した。

○ 令和6年度以降の計画

各市町村の地域おこし協力隊員が主体となる連絡会議を開催する。

②⑧ 婚活支援事業

(令和5年度決算額 1,996千円, 令和6年度予算額 2,000千円)

○ 令和5年度実績

交流型(対面方式)のマッチングイベントの開催

11月12日(日) 水戸市 参加者: 男性14名 女性19名, マッチング数7組

12月9日(土) 笠間市 参加者: 男性20名 女性20名, マッチング数12組

2月25日(日) ひたちなか市 参加者: 男性19名 女性19名, マッチング数9組

○ 令和6年度以降の計画

構成市町村を会場とした交流型マッチングイベントを計3回開催する(令和6年度水戸市, 那珂市, 東海村)。



②⑨ 職員人材育成事業

(令和5年度決算額 400千円, 令和6年度予算額 400千円)

(1) 合同研修の開催

○ 令和5年度実績

ナッジ研修を実施した。

○ 令和6年度以降の計画

インバスケッ研修を実施予定。次年度以降の研修内容については、担当学会議において検討していく。

(2) 研修の相互参加

○ 令和5年度実績

実務能力向上研修、接遇能力向上研修、民法基礎研修、60歳職員キャリアデザイン研修等を実施した。

○ 令和6年度以降の計画

水戸市主催では実務能力向上研修、接遇能力向上研修、行政法研修、60歳職員キャリアデザイン研修を実施予定。次年度以降も同様の研修を検討していく。

③〇 S D G s の取組に係る連携事業

(令和5年度決算額 598千円, 令和6年度予算額 1,000千円)

(1) 小・中学生等を対象としたSDGs学習会の開催

○ 令和5年度実績

構成市町村の小・中学生のSDGsに対する理解促進を図るため、Pepperを活用しながら、各学校の授業やイベントにおいてSDGsの普及啓発に取り組んだ。

○ 令和6年度以降の計画

Pepperの活用実績が着実に増えていることから、引き続きPepperを活用したSDGsの普及啓発に取り組むこととする。また、Pepperのリース期間が令和6年度までとなっているため、令和7年度以降の事業について、検討を進める。

(2) 市町村職員等を対象としたSDGs研修会の開催

○ 令和5年度実績

構成市町村の職員を対象とし、職員のSDGsに関する知識を深め、更なる理解促進を図るとともに、「①SDGsに関する情報や知識について、市民等に対して、楽しく簡単に、分かりやすく伝えるスキル」及び「②SDGsを推進するための事業を企画立案するスキル」の向上を図ることを目的とし、笑下村塾が提供する出張講座「笑って学ぶSDGs」を実施した。

○ 令和6年度以降の計画

市町村職員等を対象としたSDGs研修会については、各市町村担当職員等の知見が深まり、SDGsの推進に向けた基盤づくりができたものと捉え、令和6年度以降

は実施しない。今後については、広く圏域内の住民、企業に対する SDGs の普及・啓発に取り組んでいく。

(3) SDGs に関する普及啓発活動の推進

○ 令和 5 年度実績

圏域内の住民等に対し、広く SDGs の普及・啓発を図るため、令和 6 年度以降に実施する事業について構成市町村間で協議を重ね、各構成市町村が実施するイベント等において、SDGs ブースを出展し、SDGs の普及・啓発を図っていくことで合意を得た。

○ 令和 6 年度以降の計画

令和 6 年度から令和 8 年度にかけて、全ての構成市町村のイベント等にブースを出展し、圏域全体での SDGs の普及・啓発を図っていく。

※ ビジョンにおける「Ⅲ 生活環境の充実」の成果指標

		ビジョン策定時点 の直近の値	2023(R5)年度末 時点の直近の値	目標値
医師数(別掲)	時点(年)	2018(H30)	2022(R4)	2026(R8)
	値(人)	1,385	1,473	1,470
看護職数	時点(年)	2018(H30)	2022(R4)	2026(R8)
	値(人)	8,601	9,154	8,900
健康づくりに係る社会実験の取組件数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(累計件)	－	2	2
養成講座を修了した成年後見従事者数	時点(年度)	2020(R2)	2023(R5)	2026(R8)
	値(人)	12	10	21
公の施設の広域利用者数(居住市町村施設利用者数を除く。)	時点(年度)	2020(R2)	2023(R5)	2026(R8)
	値(人)	193,699	269,907	270,000
合同就職説明会・相談会参加事業所数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(事業所)	－	93	40
取組を実施する住民1人当たりの電力使用による二酸化炭素排出量(奇数年)	時点	2019(R1)年 11 月	2023(R5)年 11 月	2025(R7)年 11 月
	値	51.7kg-CO2	49.7kg-CO2 (3.9%減)	8%削減
取組を実施する住民1人当たりの電力使用による二酸化炭素排出量(偶数年)	時点	2020(R2)年 12 月	2022(R4)年 12 月	2026(R8)年 12 月
	値	63.9kg-CO2	61.3kg-CO2 (4.1%減)	8%削減
水戸市を經由する路線バスの1日当たりの利用者数	時点(年度)	2020(R2)	2022(R4)	2026(R8)
	値(人)	29,862	24,318	35,000
移住・定住に係る市町村への相談件数	時点(年度)	2020(R2)	2023(R5)	2026(R8)
	値(件)	330	572	600
研修参加者数(合同研修及び相互参加に限る。)	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(累計人)	－	219	350
SDGs普及啓発事業への参加者数	時点(年度)	2021(R3)	2023(R5)	2026(R8)
	値(累計人)	－	1,287	1,000